

麦作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

今年の播種は11月中旬に始まりました。11月中旬から12月上旬の気象は、暖冬傾向にあり、平年に比べ、気温は0.8℃高く、降水量は40%、日照時間は92%でした。11月に播種された麦は、気温が高かったことから、出芽の日数が早まり、その後の出葉も平年に比べて進んでいます。長期予報では暖冬が予想されており、生育が進み過ぎないように、特に麦踏み作業がポイントとなります。以下のことに留意しながら栽培を行いましょう。

1. 排水対策

下の写真は11月下旬播きの管内ほ場です（12月13日現在）現在1葉期で、12月末に分げつ開始すると予想されます。暖冬下では、麦踏み等の管理作業が必須であり、スムーズにできるよう排水対策が重要になります。

排水対策は、地表排水と地下排水の組み合わせで行いますが、地表からの排水が約6割を占めますので、畝溝と周囲溝と排水口をつないで地表水を速やかに排出させることが重要です。まだ整備をしていないほ場は、早めに行ってください。



【11月末に播種された畝立栽培の麦：現在1葉期】



【周囲溝と排水溝をつなげた圃場】

2. 晩播対策

水稻跡の播種はほとんど終了していますが、大豆跡についてはまだ残っています。晩播麦の収量確保のためには、晩播限界日（大麦：12/20、小麦：12/15）までの播種が必要です。遅れているほ場については、右表を参考に播種量を増やして下さい。

○播種量 基準よりも3～5割増やします（晩播限界日以降）

品種名	播種量(kg/10a)	大豆後作の播種量(kg/10a)
ほうしゅん	10～11	8～9
チクゴイズミ ちくしW2	10	8

○小麦のシロトビムシ対策

小麦で過去にシロトビムシによる出芽不良が発生したほ場では、トリフミン水和剤（種子重量の0.5%種子粉衣）に加えて、シロトビムシ対策（アドマイヤー水和剤を種子重量の0.15%種子粉衣）を行ってください。

○雑草防除（10aあたり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
クリアターン乳剤	500～700ml	70～100ℓ	播種直後（雑草発生前）
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期まで
ムギレンジャー乳剤	300～600ml	50～100ℓ	播種後～出芽前

3. 11月に播種したほ場での管理作業

麦の生育状況を把握して、次の作業を行ってください。

○麦踏み

長期予報では暖冬が予想されています。麦踏みは暖冬による進み過ぎる生育を制御し、耐寒性の増大、分けつ促進及び倒伏防止のために行う作業です。本葉4枚目が出る頃（11月下旬播きでは12月末）から始め、ほ場が乾燥している日を選んで数回行ってください。

○土入れ

土入れは、雑草防除、倒伏防止、無効分けつの抑制及び湿害防止の効果があります。乾燥が続いて土壌が乾き、茎葉の水分含量の少ない日の午後に行います。また、麦踏み前に行い、麦踏み直後には実施しないようにしましょう。1月以降～3月上旬までに2～3回行ってください。

※追加で麦種子を購入する場合は、在庫の関係がありますので、事前に最寄のグリーンセンターにお問い合わせの上、購入をお願いします。

グリーンセンター	本店	36-4785
グリーンセンター	福岡	43-0939
グリーンセンター	津屋崎	52-2900